



さかいぎ

チャレンジアップ! かがやく自分

6月号

令和4年5月31日
横浜市立境木小学校
校長 清見克明

次の世代へつなぐもの

副校長 本田 昌彦



幼いころ鶴見区に住んでいた私は、真っ黒で、どろどろとした水を鮮明に覚えています。それは、昭和40年代の鶴見川です。当時は高度成長期であり、工場排水がそのまま鶴見川に流されていたのです。そして、自然環境破壊の象徴として、「カワセミ」の減少がテレビや新聞に取り上げられていました。そのことが心の中のにこり、いつしか本物のカワセミを、自分の目で見たいと思っていました。

今年の2月に河津桜を見るために南伊豆町を訪れたとき、川沿いの桜を見ていると、不意に目の前を翡翠（ひすい）色の鳥が横切り、向こう岸の葦に留まったのです。野生のカワセミです。手持ちのデジカメでは性能が及ばず、上記のような写真となりましたが、ずっと思い描いていたカワセミを見ることができました。うれしくて、カワセミに見とれていたのですが、なぜか汚なかった鶴見川の映像も思い出しました。

もちろん、南伊豆町は美しい自然のまま時間が経過していたのですから、カワセミが生息できています。また、環境が回復しつつある横浜市内でも、カワセミを見られるという情報もあります。そして、何十年という月日がたった現在、東海道線の車窓から見る鶴見川の水は、光を反射し透き通っています。多くの方々の努力により、水質が劇的に改善されました。ただ、環境が回復するまでに長い年月がかかっていたのです。

現在、盛んにSDGs（エス・ディー・ジーズ）、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」が叫ばれています。地球環境の悪化が人類共通の課題となっています。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。持続可能な開発目標は、持続可能な社会をつくるために欠かせません。

一度壊された自然が回復するまで、多くの努力と時間がかかります。次の世代の子どもたちには、壊されたものを取り戻すことに時間を費やすのではなく、持続可能な、よりよい平和で豊かな社会を築くための時間としてほしいと思います。そして、今、地球上で起きている様々な争いごとが、一日も早く終息することを切に願います。

先日の「さかいぎチャレンジカップ（運動会）」では、様々なご協力とご声援をいただき、誠にありがとうございました。これからも、輝く子どもたちの姿をお見せしていきたいと思っております。